

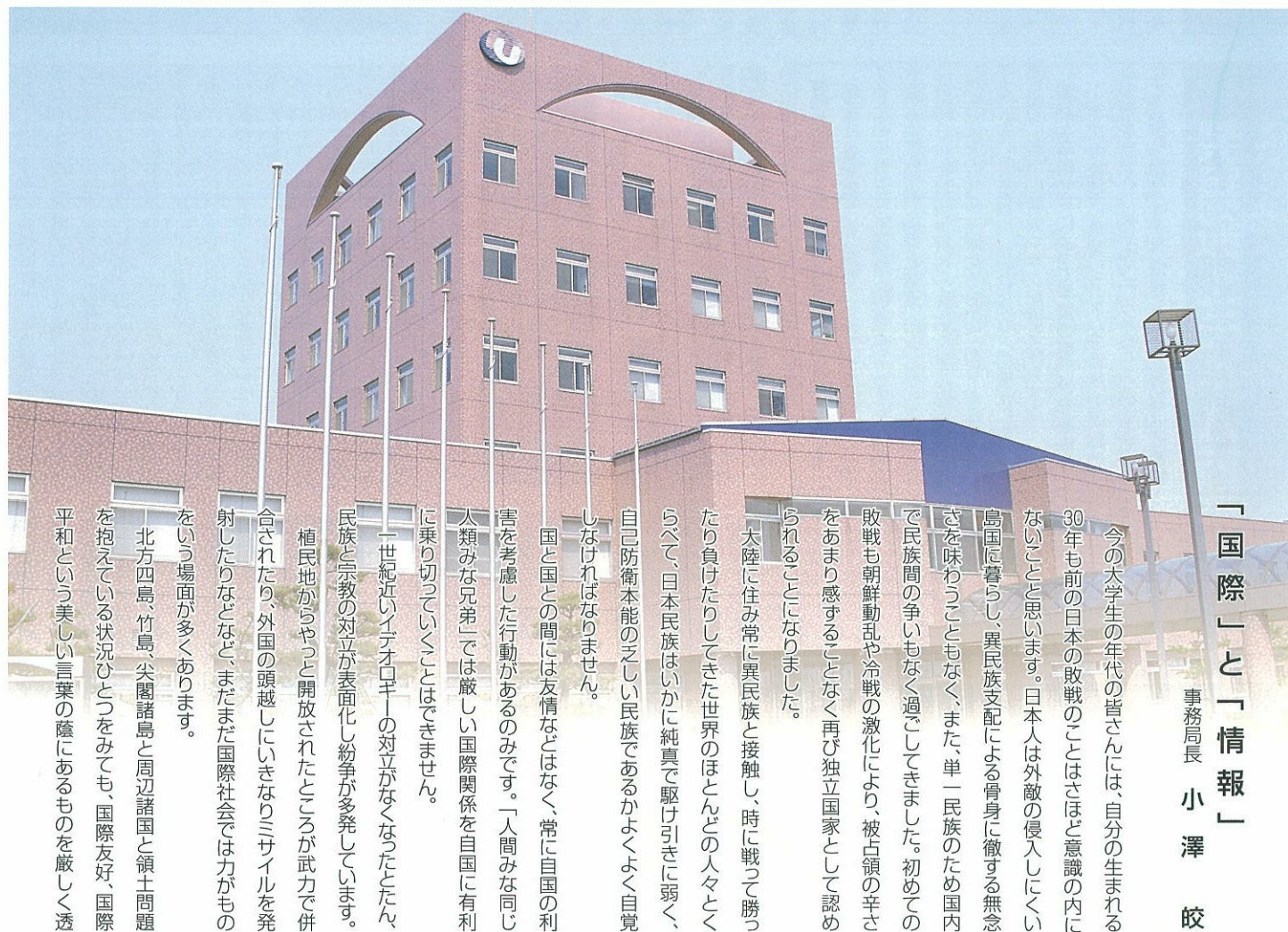


国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第8号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp



「国際」と「情報」

事務局長 小澤 皎

今の大学生の年代の皆さんには、自分の生まれる30年も前の日本の敗戦のことはさほど意識の内にないことと思います。日本人は外敵の侵入しにくい島国に暮らし、異民族支配による骨身に徹する無念さを味わうこともなく、また、単一民族のため国内で民族間の争いもなく過ごしてきました。初めての敗戦も朝鮮動乱や冷戦の激化により、被占領の辛さをあまり感ずることなく再び独立国家として認められることになりました。

大陸に住み常に異民族と接触し、時に戦って勝ったり負けたりしてきた世界のほとんどの人々とくらべて、日本民族はいかに純真で駆け引きに弱く、自己防衛本能の乏しい民族であるかよくよく自覚しなければなりません。

国と国との間には友情などではなく、常に自国の利害を考慮した行動があるのみです。「人間みな同じ人類みな兄弟」では厳しい国際関係を自国に有利に乗り切っていくことはできません。

「世紀近いイデオロギー」の対立がなくなつたとたん、民族と宗教の対立が表面化し紛争が多発しています。植民地からやつと開放されたところが武力で併合されたり、外国の頭越しにいきなりミサイルを発射したりなど、まだまだ国際社会では力があるという場面が多くあります。

北方四島、竹島、尖閣諸島と周辺諸国と領土問題を抱えている状況ひとつをみても、国際友好、国際平和という美しい言葉の蔭にあるものを厳しく透

徹した目で見抜く力を養わなければなりません。

国際的視野の狭さと表裏一体となっているのが日本民族の情報軽視の体質です。国際社会で採まれているはずから情報収集の必要性を嫌でも感ずるのですが、長い鎖国といったこともあり、国際社会で互角に太刀打ちできる力をつけるのは容易ではありません。

先の大戦では、外交暗号はかなり以前から筒抜け、軍事暗号も何回か解読されているのではという疑念をもちながら、その都度「解読されるはずがない。」と自己のレベルで相手を判断し、敗戦まで真剣に検討しなかったことなどその一つの現れです。

明治の初め列強の植民地にされないよう必死に努力し、立派な業績を挙げた先例もあるのに日露戦争後わずか30年ほどで同じ民族と思えないほどの愚行を繰り返し、敗戦にまで至ったことはよくよく肝に銘じておく必要があるでしょう。



2000年度 カリキュラム改訂のポイント

西暦2000年の節目の年を迎え、早いスピードで変化する国際化、情報化の動きに対応できる人材を育成することを目指して、体験的学習を重視した新カリキュラムを導入する。新カリキュラムは、2000年度入学生から適用される。

留学制度の導入と 実用英語の強化

情報文化学科

学科主任 市岡 政夫

新潟国際情報大学が、地域―新潟―と時代―国際化と情報化―の要請を受けて開学してから早いもので満5年が過ぎた。本学設立構想の時期から数えるとおよそ10年が過ぎたことになる。

この間情報文化学科は、情報化にも対応できる能力を身につけつつ、国際化時代に必要かつ十分な教養を身につけることを教育の目的としてきた。

開学以来6年目を迎えた今この教育目的は正しかったと考えている。また、これまでに2回にわたって卒業生を世に送り出し、一定の社会的評価も定まってきたように思える。

そこで情報文化学科では、さらにこの教育目的をより一層効果的に達成するために2000年度からカリキュラムを改定することにした。その骨子は次のように要約される。

(1)留学制度の導入：1年次後期にアメリカ(6週間)、ロシア、中国、韓国(それぞれ5ヶ月)の提携校に留学し、言語の習得と地域文化を体験する機会を持つ。

(2)CUJL (Communicative English Program) 導入：アメリカ人専任教員の指導のもとネイティブ・スピーカーのインストラクターとともに意思疎通を図れる英語を習得するためのコース。1年次必修とし希望によつて4年次まで選択することが出来る。

(3)講義科目は、①地球社会的規模から日本を学ぶ「日本研究科目群」、②新潟、日本から北東アジア、アジア・太平洋地域―ロシア、中国、韓国、アメリカ

―を学ぶ「地域研究科目群」、③地球社会市民の一員として国際社会の仕組みや動向を理解し、異文化に対する認識を深める「国際研究科目群」とに大別され、より系統的に理解が深まるように整理した。

(4)少人数教育の充実：これまで以上に少人数教育を徹底するために1年次から4年次までゼミナールを必修とし、きめこまかな教員の指導・支援を受けながら、学生自らが課題を見出し、それを自ら解決する力を身につけることが求められる。

体験学習を強化し 専門性を高める

情報システム学科

学科主任 榎本 公一

情報システム学科では開学以来数年にわたる教育実績と、変化し続ける情報社会環境の実情を考慮し、社会の要請に適合する人材を養成していくために以下の主旨でカリキュラムを改訂する。

専門分野の核となる5つの領域をバランスよく勉強する

情報社会を支える「情報システム」を創造し活用するためには、5つの領域(情報とシステム、人間と社会、企業と組織、論理と数理、コンピュータと通信)に分類された科目をバランスよく学ぶ必要がある。という従来の骨格は確たるものであり、今後も継続する。ただし社会環境、情報技術などの変化に応じて、部分的に科目の新設や年次配置を変更する。

演習と卒業ゼミによって学習の専門性を高める

1年次の後期に情報システムの活用を課題とする演習を新設し、従来のプログラミングの演習と併せて選択必修とする。情報システム演習は各領域の基本的な課題を対象にして、2年次前後期の1年間とする。3年次では、まず学習内容を深める領域(論理と数理を除く4つの領域)を決め、前期は領域毎の専門演習、後期は各研究室ゼミを受講して自己の

学習内容の専門性を高める。4年次はそのゼミで卒業研究を行い、卒業論文を作成する。

企業や海外での体験を通して学ぶ

国際化に不可欠である英語は従来通り2年間必修とし、学生時代に貴重な企業体験が得られる学外実習(インターンシップ)も継続する。また、海外研修旅行に代わる米国短期語学研修を夏休休暇中に実施できるよう準備を進めている。

みずき会(同窓会)の活動

みずき会副会長 山田 雅美

(第一期卒業生)

先日、紅翔祭へ行ったときのこと。私たちの頃よりずっと人の出入りが多くなったなあ、友人们とあちこちを見てまわっていると、頼もしく動き回る後輩たちの間にかかなりの数の卒業生を見つけた。懐かしい面々と会つことはなんとなくうれしく、その面々と久しぶりに近況や思い出を語り合うことというのは元氣が出るものです。

新設大学という環境からスタートして6年、新潟国際情報大学はもうじき3度目の卒業生を送り出すとしています。これから年を経るに従ってみずき会(同窓会)会員も益々増加し、又、母校や仲間を懐かしく想う気持ちも増していくことでしょう。みずき会では年に一度総会を開催し、母校と卒業生、教職員、在学生とのチーン作りをしています。また、在学生にとってはもちろんのこと、卒業生にとっても母校が年々発展してゆくことは非常に喜ばしいことです。母校や同窓会に寄せられるものは一人一人それぞれ違った学生生活を送った様に違ふものだと思いますが、卒業生として、みずき会が母校発展の一端を担えれば、と思っています。



▲9月4日に開かれたみずき会総会

有意義だった就職懇談会

恒例の企業との就職懇談会が11月10日(水)新潟市のホテルにおいて開催された。

理事長、学長、両学科主任、就職指導委員長による御礼の挨拶や各々の説明の後、学部長の乾杯の発声で懇談会へと移った。

年々厳しさを増す就職戦線だが、前年同様約200社から人事担当者等が出席、教職員と積極的な情報交換し、熱気あふれる会となった。

参加者の声をひろってみると

①「大学が一体となって、こんなに頑張っている大学は他にない、先生方の熱意が伝わってくる」

②「学科等の説明を聞いて大変参考になった。今後の採用計画に役立てる。今日は来てよかった。」

③「NUIの学生は少し大人しい。もっと積極的になりたい。」云々……

不況でも就職はできるのだ！これから大学は学生の就職活動を全力で支援して行きます。

教員の 出版物

神俊作・神林秀明著

『企業価値創造マネジメント』

中央経済社1999年10月

企業価値を重視した企業経営が求められることになるであろう背景を、企業価値の増大を期待する外部報告要請の側面と事業再構築リスストラクチャリングの意思決定や企業価値の増分の測定などの内部マネジメントの側面との2つの側面から論じている。共著者の神林秀明氏は会計ソフトウェアパッケージ製造販売の株式会社NTC(本社)長岡の代表取締役であり、産学協同の一環として執筆分担した。(神俊作記)

公開講座①

パソコン入門

10月2日から全4回の予定で始めた「パソコン入門」講座が無事終了した。40名の定員で募集したが、200名以上の応募があつて、急遽10名に拡大して対応した。それでも多くの方にお断わりしなければならなかった。公開講座は回数を重ねるに従い出席率が落ちるのが常だが、この講座は欠席者がほとんどいない。パソコンに対する市民の熱意は相当なものである。講師の一人は「皆さん熱心なので学生諸君に教えるより楽しい」とおっしゃる。また第一回から「どんなパソコンを買えば良いのか」という質問が多く寄せられた。この機会にパソコンを買おうと考えている方が多いようだ。(渡辺忠記)

- 1.実施月日/10月2日(出)・10月16日(出)
10月30日(出)・11月13日(出)
- 2.時間/13:30~16:30
- 3.内容/①パソコン入門
②インターネット入門
③ワープロ (Word) 入門
④表計算 (Excel) 入門
- 4.対象者/一般市民
- 5.県民カレッジ、にいがたマルチメディア
ワールドin新潟に参加



公開講座②

健康づくりのための
フィットネストレーニング

近い将来の超高齢社会では、高齢者が積極的に社会的役割を果たし、生きがいを持つて生活出来る環境づくりと各自が自分の身体を管理出来る能力の育成が望まれている。

計3回(10月9日・11月13日・12月11日)から成る本公開講座の第一回目の講義では、QOLの向上に不可欠な新しい健康の概念について述べると共に、急速に高齢化が進む社会における健康体力の自己管理能力の必要性について詳説した。フィットネス理論としては、形態と体力の評価方法及びトレーニング効果と生活習慣病の予防改善について解説した。

第2、3回目为主として行うフィットネス活動は、準備運動としてストレッチング、エアロビックトレーニングとしてはウォーキングやペダリング等のエクササイズ、アナロビックトレーニングとしてはマシン及びフリーウェイトによるウェイトトレーニングを予定している。

本公開講座は、身体の自己管理能力の育成に関する情報及び環境の提供という点で意義を有すると考える。(長崎浩爾・藤瀬武彦記)



公開講座③

映画の中の市民社会

今年5月から7月にかけて開講し、好評のうちに終了した公開講座「映画の中の市民社会」の番外編として、11月20日(土)新潟市民映画館シネ・ウインドにおいて映画上映と講演を行った。上映作品は、69年度アカデミー外国語映画賞を獲得したフランス・アルジェリア合作の政治サスペンス映画「Z」で、情報文化学科越智敏夫助教授が講演した。

「情報システム特論」を市民に公開

昨年に引き続き、情報システム学科3年次生向け講義である「情報システム特論」を市民の皆さんに公開している。この講義は、実社会で活躍している方々から情報システムに関する最新の動向をお話し頂くもので、10月・12月の第一、第三土曜日に計五回実施予定である。すでに三回実施したが、毎回、学生百数十名に加え、一般社会人の方々二十名前後が参加され、活発な質疑応答があつた。講義内容は、「情報収集の現状と課題」柴田亮介(電通リサーチ)、プロジェク「管理の体験的方法論」有井正雄(都築電通)、「電子商取引の現状と将来」辻秀一(電子商取引実証推進協議会)、「銀行の情報システム」昨日・今日・明日「岩丸良明(さくら総合研究所)、「県の情報化の現状と施策」松村 雅一(新潟県庁)、「県の情報産業の現状と振興策」由良英雄(新潟県庁)。(市川照久記)

の活動

教員

明石欽司助教授—安達峰一郎賞を受賞

情報文化学科明石欽司助教授は、本年10月、第32回安達峰一郎賞を受賞しました。同賞は、元常設国際司法裁判所長安達峰一郎博士の偉業を記念して、国際法に関する優秀な研究業績の中から毎年1編を表彰するものです。対象となったのは、本学の平成9年度研究成果公刊助成金を受けて出版した次の著作です。

Cornelius van Bykershoek: His Role in the History of International Law

(Kluwer Law International, The Hague/London/Boston, 1998)

區建英教授—「世紀交代期における方向選択」国際シンポジウムで発表

北京の秋は普段、様々な国際的学会で賑わっているが、今年はさらに中華人民共和国の建国50周年式典が行われた。私は建国記念式典へ招請され、また国際シンポジウムにも発表者として招かれたが、建国記念式典への参加を止め、学会の方だけ出席した。というのは、中華人民共和国の光明と暗黒、喜びと悲しみが交錯した50年間で、距離をもつて考えたいからである。日本在住によつて、私が祖国を客観化する視野を持てたことに感謝している。10月8・12日に行われた国際シンポジウムは、日本国際交流基金が支えている北京日本学研究センターが主宰したもので、日・中・韓三国の学者が21世紀東アジアの方向選択について学術レベルで有益な討論を行った。(區 建英記)

塚田真一講師—国際統計学会で発表

情報システム学科塚田真一講師は、7月28日~31日に岡山理科大学で開かれた日本統計学会にて「Power comparison of Flury criterion, Schott criterion and Wald criterion on the test of several latent vectors」について題目で研究発表を行いました。また、8月10日・18日にフランクフルト・ヘルシンキで行われた国際統計学会にて「An introduction of statistical testing in secondary education」, 「Finite connections of Akaike's information criteria for model selection of contingency table analysis」, 「Wald criterion for several latent vectors of covariance matrices」の3つの題目で研究発表を行いました。

今夏7月25・29日に米国ポートランドで開かれた、P-COMET'99という技術マネージメントに関する国際学会に出席し、「文化性を指標とする研究開発マネージメント」という題で発表してきました。ポートランドはアメリカ西北海岸にある「ロビンシア川」に面した、日本への木材の積み出し港です。オレゴン州の州都ですが、近年インテルをはじめとするハイテク企業が集まってきたっており、またナイキの本社もあるなどベンチャー企業でも有名になっています。夏冬共にのぎやうい、物価も安く、大変きれいな街です。会議後、レンタカーでエローストンからグランドキャニオンまで5000km走って、5つの国立公園をめぐり、アメリカの大自然を満喫してきました。(宗沢拓郎記)

宗澤拓郎教授—「P-COMET'99」で発表

原口武彦教授—コートジボワール国を訪問

農水省の在外団体、AICAFA(国際農林業協力協会)の依頼で、8月6日から18日まで、現地調査団の一員として、西アフリカコートジボワール国を訪問した。現地では、同協会が農業協力事業を展開している内陸ブアケ市近郊の農村で、事業の進捗状況、問題点を地域研究者の立場から観察し、評価、助言を行った。(原口武彦記)

蔡建国教授—中国建国50周年記念式典に出席

情報文化学科蔡建国教授は、中華人民共和国成立50周年(1949~1999)に当たって中国政府の招請を受け、北京の人民大会堂で行われたレセプションや、天安門広場で行われたパレードなどの慶祝行事に参列しました。

山口直人助教授—中国広州で国連ワークショップに参加

11月22日・24日、情報システム学科山口直人助教授は、中国政府の要請に基づいて国連(地域開発センター)が開催した都市計画分野における情報システムの活用を議論するワークショップに日本側の代表の一人として招請され、今までの研究成果を発表しました。

忘れられない思い出が、また一つ胸に刻まれる。

第6回紅翔祭開催



今年で6回目を迎えた紅翔祭。
『新時代宣言』というテーマのもと、
10月23日(土)・24日(日)の2日間にわたって、
盛大に開催されました。
お天気にも恵まれた紅翔祭2日目の日曜日には、
父母会や地元の赤塚から大勢の方々に
ご来場いただきました。
この日のメインイベントは「山田洋次監督 文化講演会」。
予定していた入場者数をはるかに上回る
大盛況となりました。



一人芝居ライブが学生に大ウケ。

「小林へろ氏 語り」

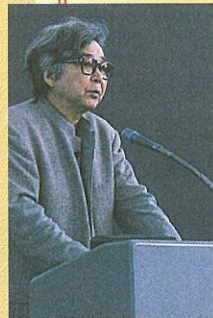
23日のメインイベントは、地元・新潟で活躍する小林へろさんの「一人芝居ライブ」。おとぎ話や昔話をモチーフに現代風刺を盛り込んだ「語り」です。へろさんの熱演と軽快なトークに、会場は爆笑につつまれ、あちこちから声援が送られていました。



国民的映画としてヒットした作品のエピソードの数々。

「山田洋次監督 文化講演会」

～寅さんと学校～



24日の文化講演会では、映画撮影時のエピソードなどを山田洋次監督にお話いただきました。なかでも、渥美清さんと山田洋次監督が知り合いのテキ屋をヒントに「寅さん」を生み出したという話は、父母会の方々に大変好評でした。



●中国語劇「三国志」

土・日曜日の2回にわたり、中国語劇「三国志」が公演されました。今年は、せりふに日本語を織りまぜたため、中国語が分からない人でも演劇を楽しむことができました。



●お茶会

茶道部が日ごろの練習の成果を発表したお茶会。学生たちが普段くつろいでいるロビーも、紅翔祭当日には畳三畳分の「和風喫茶コーナー」となりました。



●模擬店

飲食物のお店やゲーム、研究成果を発表する展示が、中庭や教室にたくさん並びました。おでんや焼きそばなどの味も評判良く、売れ行きは好調。行列ができるほど繁盛したお店もありました。



●英語スピーチコンテスト

今年は6人の学生が参加。コンテストでは、内容や発音、声の大きさ、身振り・手振りまでもが審査の対象となります。出場者の堂々としたスピーチに、会場から拍手が寄せられていました。



「紅翔祭を振り返って」

紅翔祭実行委員長 岡本直人
(情報文化学科2年)

本年度は当初、紅翔祭実行委員長が選出されていませんでした。

昨年の選挙時に実行委員長の候補者が誰もいなかったため、本年度に入ってから全学委員会と学友会に選出が一任され、私に白羽の矢が立ちました。振り返ってみると私は、この大役を無事に果たせたのであろうか。実行委員長として仕事をしていたのだろうか。危機感を持って仕事をしていたのだろうか。一部の人間だけで問題を解決しようとする傾向があったのではないだろうか。自分たちだけ忙しい素振りをしていたのではないだろうか。考えてみると反省点ばかりが頭に浮かびます。今年の紅翔祭は、実行委員が2年生主体だったため右も左も分からない状態で準備が始まりました。

いざ紅翔祭が始まってみて一番感じた事は、皆に楽しんでもらえたかという事です。いかに多くの人に楽しんでもらえるかという事を考えて、ステージイベント等、企画で頭を悩ませました。また、これは自分だけが感じている事かも知れませんが、学生の参加が少なかったように感じます。より良い紅翔祭にするために、多くの人の協力が必要だと感じました。

実行委員会としても今年の反省を活かし、皆さんの希望に添えるよう努力していきます。数々の不手際で多くの人に迷惑を掛けた事を、この場でお詫び申し上げます。協力して下さいました皆さんに厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

NUIS学生の生活と意見

～ライフスタイル調査から～

マーケティング研究会(正田ゼミ)では、学生それぞれが独自のテーマで、特定の産業界あるいは、企業のマーケティングの研究をしています。その研究の中で、今後のマーケティング戦略提案の参考に、それぞれの商品や小売店について、消費者の意見を探るために、平成十二年九月三十日(木)に本学の講義「マーケティング」受講生を対象にアンケート調査を行いました。その中で印象的な結果が得られたものを報告します。

1. 小遣いの使い方

小遣いの使い方について聞いたところ、第一位は買物(31%)、第二位は電話料金(22%)、第三位は外食(18%)と、おおそ予想通りの回答が得られました。ついで使ってしまうがちなものに回答が集中したようです。(図1)

小遣いの金額では第一位は1万円以下(24%)、同数で1～2万円(24%)、これに次ぐ第三位は4～5万円(18%)でした。それにしても3～4万円を飛び越しての結果に驚きました。おそらくアルバイトをしている人としていない人の差だと思われます。この結果から、アルバイトをしている人は月に4、5万円稼いでいると言えます。(図2)

図1 小遣いの使い道

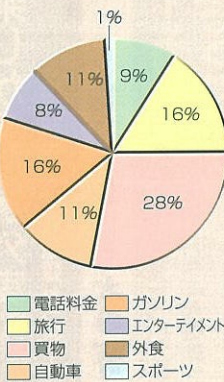
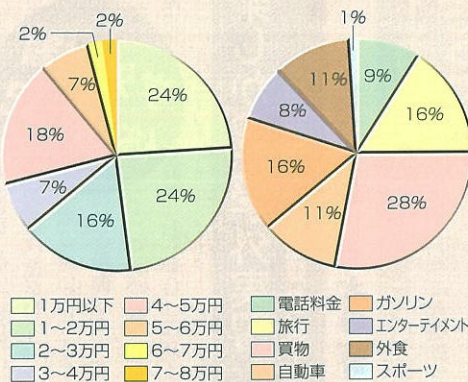


図2 小遣いの金額



2. よく利用するCD店

よく利用するCD店はどこかという質問では、第二位がTSUTAYA(33%)、第二位は決まっていな(27%)で、次いでHMV(15%)でした。(図3) 1ヶ月に買うCDの枚数の第一位は、あまり買わない(34%)、次いで第二位がレンタルする(24%)という結果でした。購入する人でも2～4枚、1～2枚がそれぞれ16%でした。このことから、CDを購入する人は少ないと言えるでしょう。(図4)

図3 よく利用するCD店

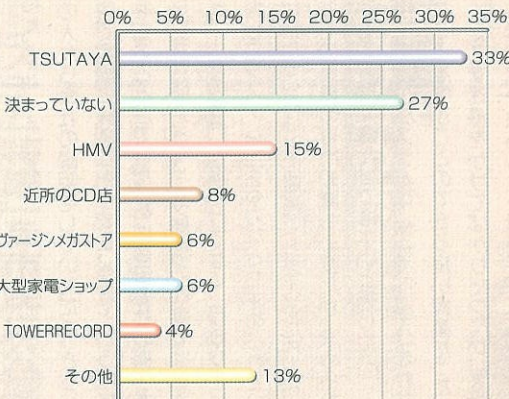
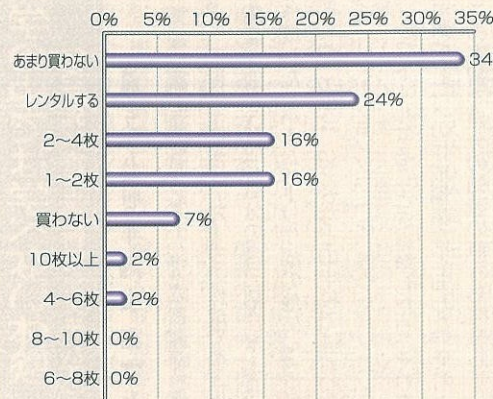


図4 1か月に買うCDの枚数



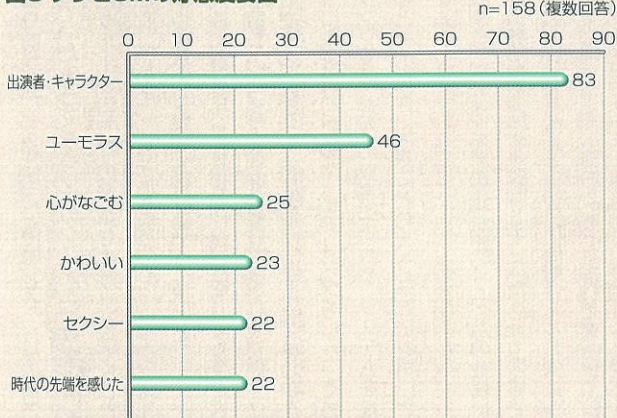
3. 好きなテレビCM

好きなCMのランキングは、第一位がDDIのエッチ、第二位がセガのドリームキャスト、第三位にサントリー、武富士、ドコモ、トヨタ、日清となつています。(図5) テレビCMの好感を持つ理由としては、第一位が出演者・キャラクター(52%)、第二位はユーモラス(29%)、第三位は心がなごむ、かわいい、時代の先端を感じた、セクシーである、の順となりました。(図6)

図5 好きなテレビCM

	スポンサー名	商品名	回答数
第1位	DDI	エッチ	9
第2位	セガ	ドリームキャスト	6
第3位	サントリー	ボス	4
	武富士	武富士	4
	ドコモ	iモード	4
	トヨタ	キャミ	4
	日清	カップヌードル	4
第4位	キリン	ラガー	3
	タカラ	カンチューハイ	3
	トヨタ	セリカ	3
	トヨタ	ファンカーゴ	3

図6 テレビCMの好感度要因



4. コンビニの知名度と利用度

学生の生活にとって身近なコンビニについて聞いたところ、もっとも名前を知っているのはセブンイレブン(67%)が圧倒的で、第二位はローソン(26%)、第三位はデイリーヤマザキ(3%)でした。(図7) コンビニに実施して欲しいサービスとしては、24時間営業が第一位となりました。上位には生活に密着したものがランキングしていて、特にATM業務は未だ部の店舗で行われていないが、32%もの大きな要望があります。(図8)

図7 コンビニの知名度と利用度

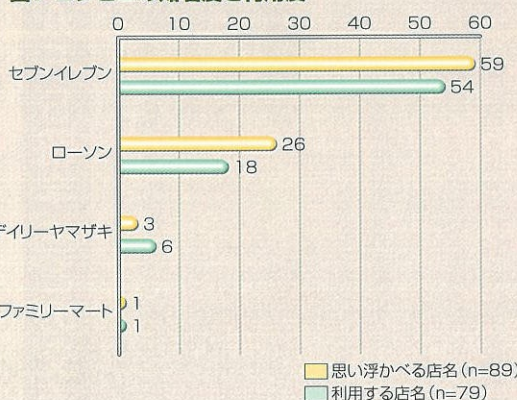
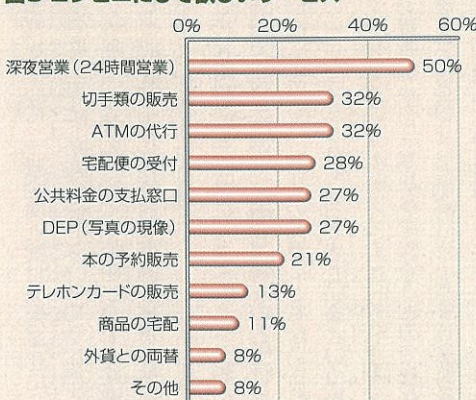


図8 コンビニにして欲しいサービス



学外実習 体験記

楽しかった学外実習

(実習先/JA電算センター)

情報システム学科3年 太田 清華

私は新潟県の重要な産物であるお米について前から興味があり、それに関わっているJA電算センターを学外実習先を選びました。初日のお話で、JAは農業だけではなく、信用事業(金融)や病院の業務など様々な分野で活躍しており、JA電算センターはそれらの業務の中心となるシステムを総合オンラインで管理している所である事を知りました。ですから、コンピュータの実経験が少ない私がお米とは大きくかけ離れた重大な仕事を二週間しなければならぬと思うと不安でした。しかし実際に研修してみると、目で見て学ぶ事が多く、学校の授業で出てきた用語などの意味をよく理解する事ができました。また、ホームページの作成やプログラムを組む作業もありましたが、社員の方々が一つ一つ丁寧に教えて下さったので、分からない所もなく作成できました。新潟国際情報大学から就職した二人の先輩と一緒に研修する機会もあり、会社の仕事や就職活動などのお話を聞いてためになりました。

私はこの研修で、疑問に思う所を常に質問すると心に掛け、積極性を身に付ける事ができました。そして、全ての部署の仕事を一通り学び、会社というものの仕組みを把握できました。また、周りの方が優しく接して下さったので会社に対する不安がなくなり、こんな会社に就職したいと、将来の方向性が見えてきました。短い間でしたが、得るものが沢山ある充実した日々を送り、学校では学ぶ事ができない貴重な体験をすることができました。本当に楽しい学外実習をすることができて良かったです。

大学の中では学べない体験

(実習先/富士通新潟システムズ)

情報システム学科3年 内山 あさと

学外実習で富士通新潟システムズに2週間お世話になった。実習は主にホームページの作成であった。写真や画像を取り込んで自分の自己紹介ホームページを作成した。ホームページ作成の他に、Photo Paint Shopなどの学校では習わなかったアプリケーションソフトを、借りたパソコンに自分でインストールする事を経験したり、それを使って写真やアニメの作成編集などもした。それと同時にこの実習で自分の知識の無さを実感してしまつたが、自分の力を知るといふ意味でもとても勉強になった。

会社の人から会社の説明をしていただき、さらに自分の目で実際に見ることができ、会社という組織の様子を知ることができた。私は毎日会社の様子を見て、この会社はコンピュータ関係の仕事ではあるがコンピュータの専門知識だけでなく、行政サービスを把握してシステム化する力なども求められていると気付いた。これはどの職種でも言えるだろうが、働く上でその業種の専門知識も必要だが、求められるものはその専門知識だけではないと感じた。

この学外実習のシステムは、学校では学びきれない色々なことを学ぶことのできる良い授業だった。何も役に立てず迷惑をかけてばかりだったが、実際の会社の雰囲気や味わうことができたし実際の情報システムに触れることができ、とても良い経験をした。今回の実習を通じて学んだことを残りの大学生活に生かしたい。

学外実習で経験できたこと

(実習先/三菱ガス化学)

情報システム学科3年 小池 洋一

三菱ガス化学に実習に行つて学んだことは、情報システム構築の実際の方法である。三菱ガス化学では、

かなり前からLANを使った情報システムを構築し、使っていたところである。そのシステムを構築された、担当グループの方々の貴重な体験話を聴くことができた。そして、システム開発のウオータフォールモデルの具体的な構築方法を教えて頂いた。

実習の最後に、来年までに構築をするシステムの基本設計のために、現在の業務の流れをフローに書いてみる事になった。実際のシステムの元になる業務フローを書くために、ヒアリングをした。そのヒアリングでは、現在の業務の流れや、システムを構築するときの条件、実際にどのような方法を用いてシステムを立ち上げるかについての説明があった。この説明は、現在の業務の流れとシステムの仕様に付いての両方についての話であったため、その場では業務の流れをおおよそでしか理解できなかった。そこで、1回ノートにおおよその流れを書いてみた。そうしたら、まだおかしな所があつたので何回も手直しを加えていき、業務フローを書くソフトを使って清書をした。そうしてから、実際の業務担当の方に見て頂き、内容を確認して頂いた。

実習に行つて、実際にシステム構築に参加することができて、とてもよかった。このような体験は、学校では経験できないので積極的に実習に参加してみたらどうだろうか。

商工会議所の役割がわかった

(実習先/新潟商工会議所)

情報システム学科3年 川上 礎生

私は商工会議所という場所以前から興味があり、詳しく知るよい機会だと思いこの場を実習先に選択しました。今回の学外実習を通して、様々なことを学べたと思います。まず商工会議所の地域における役割や構成する各課の説明を受けたことに始まり、この実習の目的でもある情報システムについても、オフコンからパソコンへの移行、それに伴う各商工会議所のオンライン化、バーコードの登録業務、各種検定業務のデータの取り扱い等、商工会議所の特別

な業務を中心に、一般企業と同じ通常業務についても実習の一部として学びました。その他に商工会議所の性格上、業務の一つである中小企業の経営相談という点から、商工会議所と各商工業者の繋がりも知ることができました。

この実習中、最も印象に残ったことは実際に古町商店街で役員の方の話を聞き、現在の古町の状況を聞いたことでした。万代の発展にともない古町は以前のような活気がなくなってきたという小売業者の切実な悩みを感じました。今回の実習を通して消費者側からはなかなか知ることのできないことを学べたということにおいて、大変有意義な実習になったと思っています。

AFS留学生との交流

11月8日(月)から同12日(金)までの5日間、アントン君ら10名のAFS留学生(男女各5名)アメリカ2、タイフランス、インドネシア、ボリビア、コスタリカ、ニュージーランド、オーストラリア各々が本学を訪問し、本学からは率先して学生12名がパートナーとして案内役を務めてくれた。短期間の体験留学とはいえ、各講義をはじめ実習やゼミに参加し、ときには母国語の披露なども行われ、とくにトン君(タイ)の珍しいタイ語の紹介や、ナタリアさん(コスタリカ)の見事な日本語の発音などが印象的であった。とくに今年は本学学生の主催による学生間の対話集会も行われた。最終日の夕刻には、さよならパーティーがあり別れを惜しんだが、留学生たちは口を揃えてグッドな体験だったと述べていた。ちなみ今年度の訪日留学生は約100名、うち1割が新潟県内にステイしている。(海野 芳郎記)



軟式野球部 全国大会出場

昨年にひきつづき、軟式野球部は、春の新潟地区リーグ戦に優勝し、全日本大学軟式野球選手権大会に出場することができた。

春のリーグ戦では、新潟薬科大学に2対7で惜敗したものの、他の7大学との対戦中、5試合はコールドゲーム勝ちという圧倒的強さを発揮した優勝であった。

今年度の全国大会は、奈良市を舞台に真夏の炎天下のもとに開催された。8月20日、地方大会を勝ち抜いてきた精鋭22大学のひとつとして本学チームも入場式に臨んだ。翌21日、わがチームは北関東の強豪、白鷲大学と対戦。5回までは1対1の緊迫した好試合を展開したが、6回、それまで好調を続けていた遠藤がスタミナ切れで突如として崩れ、8回、1対12のコールドという思いがけない惨敗を喫してしまった。酷暑の中、夜行列車による移動という悪条件が重なったとはいえ、選手健康管理の大切さを痛感させられる結末であった。(原口 武彦記)

1999年度 軟式野球部 戦績

■第22回全日本大学軟式野球選手権大会

- 1-12 (8回コールド) 白鷲大学
- 1回戦敗退

■春季リーグ戦

- 11- 4 (7回コールド) 新潟経営大学
- 4- 3 新潟工業短期大学
- 2- 7 新潟薬科大学
- 9- 1 (5回コールド) 新潟大学全学部
- 12- 1 (5回コールド) 新潟敬和大学
- 7- 4 新潟大学医学部
- 12- 3 (5回コールド) 新潟大学歯学部
- 10- 3 (5回コールド) 長岡造形大学

優勝 対戦成績 7勝1敗

■秋季リーグ戦

- 3- 0 長岡造形大学
- 10- 0 (5回コールド) 新潟工科大学
- 2-13 (8回コールド) 新潟経営大学
- 1- 0 新潟大学全学部
- 9- 4 新潟大学医学部
- 2- 5 新潟敬和大学
- 11- 1 (6回コールド) 新潟大学歯学部
- 8- 2 新潟薬科大学
- 不戦勝 新潟工業短期大学
- 3位 対戦成績 7勝2敗

サッカー部

発展途上チーム頑張る

サッカー部主将 江口陽介
(情報システム学科2年)

我々、新潟国際情報大学サッカー部は、発展途上のチームです。今年の北信越トーナメントでは、2回戦へ進んだものの、新潟大学に大敗し、北信越のトップレベルのサッカーをまざまざと見せつけられる結果となりました。しかし、その試合の結果を素直に受けとめ、糧としてのぞんだ県内大学高専リーグでは、全勝でリーグ優勝を成し遂げ、我々にとっても大きな自信を付けることができました。

しかし、県内大学高専リーグでも苦しい試合ばかり、そして北信越のレベルを見せつけられた我々にとってさらなるレベルアップが必要でした。

そこで、夏休みを利用して、長野県菅平で行われた大会に出場しました。それほど大きな大会ではないものの、全国の強豪大学がひしめく中、第3位という素晴らしい、そして大きな結果を得ることができました。

しかし、その大会で得た最も大きなものは、大会の結果ではなく、我々サッカー部の団結力でした。大会では部員全員が試合に出場し、1試合1試合チーム一丸となり戦うことができました。

これからも大会、試合を重ね、チーム全体のレベルアップをはかっていきたいと思っています。

E・S・S・(英語会)が

北信越英語会連盟

主催の大会で活躍

E・S・S(代表情報文化学科4年 佐々木伸浩)は北信越英語会連盟主催の各種大会に参加し、以下のような成績を収めた。また、10月7日に東京有楽町朝日ホールにて開かれた「TOEIC 20周年記念シンポジウム」テーマは、「これからのグローバルコミュニケーション」世界共通語としての英語にも参加した。

第2回韓国・朝鮮語スピーチコンテストで入賞

スピーチコンテストで入賞

10月23日(土)に第2回韓国・朝鮮語スピーチコンテスト(同実行委員会主催)が新潟市民プラザ(NEXT 21・6階)で開催されました。これには情報文化学科広瀬貞二助教が実行委員長を務め、本学は実行委員会構成団体のひとつとして、積極的な支援を行いました。

本学からは3名の学生(情報文化学科2年金丸佳代さん、同3年荒木玲子さん、館川千津さん)が出場しました。

審査の結果、金丸さんが第1部の奨励賞(3位)を受賞しました。金丸さんのスピーチは「ソフボールと韓国」と題し、ソフボールを通じて韓国語を学んできた過程を、韓国語との「試合」に例えたものでした。



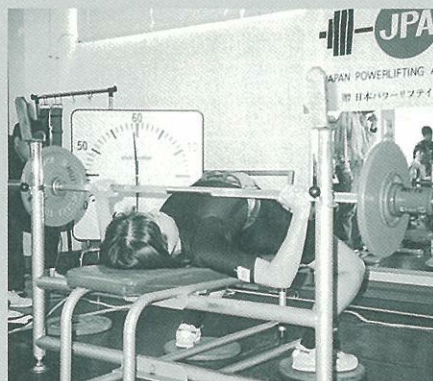
▲前列右から3人目が入賞した金丸さん

ベンチプレス

選手権大会で入賞

10月17日(日)、新潟県バウリフティング協会主催の第11回新潟県ベンチプレス選手権大会が本学体育館を会場に開かれた。本学から出場した選手の成績は以下のとおりであった。

- 女子 56.0 kg級 3位 記録 35.0 kg
広安 由佳理 文化3年 フットネス研究会
- 女子 60.0 kg級 2位 記録 47.5 kg
田中 結実子 システム3年 陸上競技部
- 女子 60.0 kg級 3位 記録 45.0 kg
八幡 紫 文化1年 フットネス研究会
- 男子 82.5 kg級 3位 記録 132.5 kg
藤瀬 武彦 情報システム学科助教



新潟国際情報大学 奨学生決まる

この度本年度奨学生が次の通り決まりました。この賞は学業のみならず、課外活動等の活躍、また卒業後も同窓生として活躍が期待できると思われる2年次以上の学生を対象に教職員の推薦により決まるものです。

- 4年次生 情報システム学科 山口 潤、山田 一洋
- 3年次生 情報システム学科 佐々木 伸浩、荒木 麻衣子
- 2年次生 情報文化学科 堀 博英
- 松田 美紀

西川 時代激まつり 出演記

来年の
時代激まつりに対する
プレッシャー

情報文化学科2年

● 今井 誠



▲舞台中央の代官役は桂三枝師匠です

私にとって西川時代激まつりは今年で二年目になります。昨年は手付役(セリフ付)で参加させていただきました。が、今年は先導役で参加させていただくことになりました。先

導役は先頭で「代官様の御通りじゃ〜!」とかけ声をかけながら歩くという役です。最初は、とても緊張しましたが、一度声を出し始めたら緊張もほぐれ、リラックスして役に徹することが出来ました。自分自信とても楽しむことが出来たのではないかと思います。

ところで話が少し変わりますが、今年の時代激まつりは、なんと吉本興業の桂三枝師匠がお越しになられて、代官役を演じておられました。そのためか、今年は観客が昨年よりも多く、観客の方々もとても興奮されている様子でした。またステージ上では三枝師匠のギャグが飛び出すなど、三枝師匠の色が強く、例年以上の盛り上がりを見せた時代激まつりとなったのではないのでしょうか。

しかし、今年は大成功でしたが来年はどうなるのか? ということを考えると、今年、「桂三枝師匠」という芸能人を呼んだ為に、来年従来通りに進行させると今年よりも盛り上がり欠け、面白味も減少してしまうような気がします。別に来年も芸能人を呼んで

欲しいといっている訳ではなく(三枝師匠が西川町と関わりのある方だということも承知しています)、来年は来年で今年の時代激まつりに負けないようなスケールの大きなものにしなければならぬというプレッシャーを与えられ、窮地に立たされてしまったのではないかといいことを言いたいのです。余計なおせっかいはと思いますが、これが私が今年の西川時代激まつりに参加して感じてしまった危機感なのです。

とまあ、偉そうなことを言っていました。が、実行委員会の皆様には毎年お世話になっており、来年も期待しているのです。そして、私もまた来年参加して、参加者の一人として時代激まつりを盛り上げることが出来たら...と思っている次第なのです。実は来年も三枝師匠に出演していただけないかな、というのが本音です。



情報システム学科3年

● 和田 未有希

Tessiさんとはアメリカ研修旅行のときにホームステイ先を紹介してもらったり、案内までしてもらってとてもお世話になった。彼女とはそれ以来メールでのやりとりが続いていた。日本に来たときは私の家に泊めてあげるという約束どおり、二泊だけだけ一緒に過ごすことになった。

彼女を泊めることになって私は家族がうまく対応してくれるかが心配だったけれど両親は喜んでお土産まで用意してくれたし、一生懸命英語で話そうと努力もしてくれた。夜には焼き鳥屋に連れていっていろいろなものを見てもらおうとがんばってくれた。彼女も今勉強中の日本語でしゃべろうとしていた。言葉は通じなくてもなんとなく言っている

ることが分かるみたいで心があれば通じるのかな? と思った。

彼女の到着した日はお茶を飲みながら明日の予定や、今までの旅行のことなど少し話をする程度で早めに休み、次の日にアメリカ研修旅行に行った人たちとふるさと村に行ったり、笹川邸を見学したりすることにしました。彼女は古い家が見てみたかったらしく、興味を持って見ていた。時々これは何? と聞かれたけれど、うまく答えられなくて困った。日本のごことを英語で説明するのはとても難しく、知識不足を感じてしまった。

最後の日は午前中は神社にいたり、紙風船を作っているところを見に行ったりして結構忙しかった。七五三の子供がたくさんいたので、彼女はとても喜んで写真を何枚かとらせてもらっていた。外国の人にとって着物というのは特別なものらしい。

二日間というのは早いもので、もうさよならの時間になってしまった。別れ際彼女は必ずまた会おうと言ってくれた。短い間だったが、私も英語がよくできるわけではないのできつと不便な思いをさせたかもしれないけど一緒に過ごすことができてよかった。こんどは、彼女の家に遊びにいけたらいいなと思う。



▲Tessiさんは後列中央、筆者は前列右から2人目

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 竹並 輝之

高校生のころだったろうか、初めて大学の学園祭を見に行った。数多くのサークルやゼミの展示の中で、2つの展示だけを今も鮮明に思い出すことができる。1つは大学周辺地域の未来の姿を模型化したもの、もう1つは三國志を題材にした京劇の映画であった。将来への夢を思い巡らす勉強と、初めて知る未知の文化との出会いに刺激され、大学は面白そうなところだなあと考えた記憶がある。

昭和38年、大学院に入ったばかりの年の学園祭を忘れることができない。11月23日、学園祭の会場でケネディ大統領暗殺のニュースを聞いた。当日は、通信衛星による、日米間の初めてのテレビ中継が行われることになっており、ケネディ大統領のメッセージが放映されることになっていたが、この映像が送られることはなかった。現在では、通信技術の進歩が大リーグの中継などを日常茶飯事になっている。

紅翔祭も6回目を迎え、大学内外に定着してきた感がある。新潟西農協赤塚支部の野菜販売も恒例になってきた。紅翔祭での地域の人々との交流や西川など周辺地域のお祭りへの参加、住民参加の公開講座などを通じて、大学が地域の核として認知され、定着していくことは喜ばしいことである。今年の紅翔祭では、惜しまれなくは夢のある企画や展示が少なかったこと、大学の設備を活用して新しい情報技術(インターネットなど)を体験してもらった場を来場者に提供できなかったことが残念であった。